

# 未経験者の教育に有効

長尺物や重量物等を輸送しユニック車を48台保有する柘運送（柘俊光社長、名古屋港区）では8月から、小型移動式クレーンの操縦訓練にVRシステムを導入。新入社員練習用ツールとして役

立っている。同社が導入した製品はVR制作などを手掛けるシンフォニア（東京都府中市）と古河ユニック（同千代田区）が共同開発した「小型移動式クレーンVRトレー

ニング」。柘社長は、「顧客の荷物で練習はできない」として以前から安全に訓練ができるこうした製品の登場を待っていたという。6月下旬の販売開始直後、柘社長はシンフォニア本社へ赴いてデモ体験し即決。これが全

国初の導入事例だ。最近採用したドライバー4人のうち3人が未経験者という柘運送。「ユニックの技能講習は3日で資格がとれるが技能習得には到底足りない」とし、「当システムを利用すれば危険のない場所で気軽に教育ができるため独り立ちを早められる」と期待。手元を見ずに操作可能とするのが目標という。また扱いに慣れた管理者クラスでも、定期的なシミュレーショントレーニングにより自身の技量を確認してもらいたい考えもある。

3回目の体験というドライバー歴20年・安全管理課の永尾準二氏は「操作したとおりに反応するのでとてもリアル。現場に出るまでの育成には大変良いと思う」と評価。

柘社長もさらなる内容の充実を期待してアイデアを提案している。シンフォニア側は「多くのクレーン操縦者の訓練にお役立ていただき、感想やアドバイスなど参考にした」としている。



VRで操作訓練をする永尾氏（富田 香）

2024. 9. 19  
物流ウィークリー